

年の就航以来、「ガンツウ」は瀬戸内海の見慣れた風景になっています。建築家堀部安嗣氏により設計されたこの小さなクルーズ船は建築と造船の融合により実現した海に浮かぶホテルです。設計から就航まではわずか2年しかかかりませんでした。

堀部氏の初期の仕事は主として住宅の設計でした。氏のこのような経験がガンツウにも活かされたことは間違いありません。全てオーシャンビューの19の船室は通常のクルーズ船の船室とは何もかもが違ってしています。床、壁、天井、調度には全て木が使われていて、クルーズ船の船室というよりむしろ旅館（日本の伝統的な宿）の客室のようです。ひのき造りの大浴場、トップデッキの縁側（木が使われた和風のベランダ）なども伝統的な味わいを感じさせ、温かく居心地の良い雰囲気船全体に行き渡っています。小さな三角屋根の家並みが並ぶ瀬戸内海周辺の景観に馴染むよう、堀部氏はガンツウの屋根を木の切り妻屋根にしました。これによって船は沿岸の家々や海沿いの環境にしっかり溶け込んでいます。

ガンツウの電気推進エンジンは非常に静かで、風景はとてもゆったりと動いていくので、現代の船に乗っていることをすっかり忘れてしまいそうです。船体そのものも周囲に溶け込むようにデザインされ、周囲の海と空の色が最高に映えるよう銀色に塗られています。

ガンツウの発着地はベラビスタ マリーナで、1泊、2泊、3泊のクルーズがあります。クルーズによりルートはさまざまですが、しまなみ海道の島々に加え、広島県宮島、香川県小豆島、山口県周防灘付近の海域まで行くコースもあります。乗客は最大でもわずか38人なので、他の大抵のクルーズ船よりもずっと親密な雰囲気を体験できます。ガンツウ自体はどこにも寄港しませんが、乗客は小型のテnderボートで近くの島に立ち寄ることができます。